

大町労山だより

VOL.2-No.2
2022/05
大町勤労者山の会

山行報告

2022/04/29-05/25 岩木山、八甲田山、秋田駒ヶ岳、鳥海山

報告・・・よこた

4/30 晴 岩木山 9:15 出発 弥生コース(大黒沢) →13:30 耳成岩→15:30 登山口

5/1 曇のち雨 9:00 八甲田ロープウェイ→2本フォレストコース滑って終わり。

12:00 終了、青森観光

5/2 晴 9:00 八甲田ロープウェイ→八甲田温泉コース 11:30、ダイレクトコース滑って
13:30 終了、

5/3 曇 秋田駒ヶ岳 6:30 アルパこまくさ→9:15 八合目→10:30 アルパこまくさ終了、

5/4 晴 鳥海山(祓川)風が強く、断念。

5/5 晴 鳥海山(湯ノ口)6:50 出発→10:00 伏拝岳→11:30 登山口

5/6 晴 鳥海山(大平)8:30 出発→13:30 2000m→14:30 登山口

GW の 10 連休を利用して東北の山をスキーしてきた。

4/30 の朝にかけての雪がすべてをだめにしてしまった。すべてストップスノーになった。

4/29 は移動だけで終わってしまった。

AM3:30 出発→14:00 青森着。天気が悪かった

のでゆっくり行った。○岩木山には岩木山スカイラインと言う8合目まで行けるバスがあるので、それに乗るためキャンプ場を7:45に出発、バス停でバスを待っていると軽トラで爺さんが雪のため運休という。朝から風呂入ってゆっくりしていた。(東北には朝風呂している温泉が結構ある。) 弥生コースの登山口へ9:00着そこから準備して9:15には出



岩木山

発した。赤布が少なく、水の流れた後か、登山道が不明瞭で迷いやすい。遅く出発したため、頂上まで行けば帰りが 16 時回ると思われたため、耳成岩というジャンダルム的な所から滑走した。昨日の雪でストップスノーになり、ブレーキが掛かるため気持ちよく滑っていかない。大黒沢を滑走終えてから、登山口まで 10 分程度迷ってしまった。



岩木山 滑べる斜面

岩木山の麓にはキャンプ場があり、綺麗で清潔な所が多く快適です。

○八甲田は「雪中行軍」で有名な所で一回行って見たかった。ロープウェイで山頂まで行けるので観光客も多く、また、青森市から 1 時間以内で行ける。5/1 は曇で昼から雨の天気予報だったため、とりあえず様子見でロープウェイに乗った。山頂に着くと乗り場の天気とは違い、ガスで雪が降っていた。今日はツアーコースはやめにして、スキーコースを滑って終わった。5/2 は晴れたので、ツアーコースに行ってみた。八甲田温泉コースという。丸い看板と竹ポールにてコースを明示されている。斜面がゆるくイマイチ面白くない。周回バスに拾ってもらい、ロープウェイ駅まで帰る。6 回乗れる回数券を買っていたので、あと 3 回ロープウェイに乗り「ダイレクトコース」を滑って終了した。



八甲田山

八甲田のスキーはコースがショボいため、ガイドがのさばっている印象。いい斜面を滑りたいならガイドに連れってもらおうということ。

○秋田駒ヶ岳は 4 年前に行って楽しかったので、今回も訪れてみた。今年は旧田沢湖アッスルスキー場を登るのだが、全く雪が無かった。登山口の「アルパこまくさ」の裏側から出発するのだが、シールを付けたのが、40 分ほど登った所からだ。あまりの雪の少なさに正直メゲた。道路も除雪されており、とても歩きにくい。天気もガスってきて、8 合目くらいになると吹雪いてきた。天候がとても不安定。視界も 10m こそことなつたため、断念して滑走開始した。4 年前は男女岳から滑走していい斜面という印象だったが、今年の長野県の大雪とは違い、雪が少なかったようだ。

岩木山はちょうど GW は桜が見頃らしいのだが、もう葉桜になっており、田沢湖ではちょうど満開を見ることができた。水仙と桜が見れてそこは満足した。

○鳥海山にはもう 5 年ほど春に通っている。祓川の登山口は人気があり駐車場がすぐ満車になる。斜面がよく、ダラダラとしたスロープみたいな斜面が無いので人気だ。5/4 は風が強く、テントが飛ばされそうになる。車が揺れる程の強風だった。これは登山口でこのくらいだと無理と判断し、違う登山口へ向かう。秋田県の象潟町(さきかた)、仁賀保とか山を降りても同じくらい風が強く、風力発電を



鳥海山北面(秋田側)から

設置しているのは納得する。

鳥海山湯ノロコース。山形県酒田市から 1 時間程で到着。車も 10 台ほど停まっていた。約 5 時間の登り、天気がよく、朝は風がきつかったが、10 時頃には止み日本海がよく見えた。伏拝岳より滑走。下ると気温が高く、25℃で汗だく。近くの温泉で汗流しキャンプ場へ。



鳥海山 湯ノロコース5合目くらい

鳥海山大平コース(おおだいら)鳥海山ブルーラインの道路が朝 8 時に開通のため、のんびりする。8:30 に登り始めたが、朝早く出発してないので、14:00 には滑走開始。15:00 には登山口に着いた。

東北の山にスキーに行っているが、斜面は大したことがなく、余裕を持って滑れる斜度だ。

北アルプスを滑っていると出だしは緊張するが、いい斜面が多い。たおやかな東北の山はまた違った魅力がある。今年のGWは10連休できたので色々回れてよかった。コロナのせいでキャンプブームが有り、キャンプ場を予約しないと一杯だから参った。

2022/05/01-05 燕岳から常念岳へ

参加者・・・秀さん他 1 名

報告・・・秀さん

コロナ渦であっても山はどこ吹く風。5月1日有明荘泊

満室でネット予約はできませんでしたが、前日尋ねたら知人の紹介と言ったら快く受け付けて頂けました。8 時頃駐車場出発。合戦尾根をひたすら登る。1 時間ほど歩いたところから雪道。ほとんどの人がアイゼンをつけていましたがうちらは付けずに登りました。12 時合戦小屋到着。



昼食を食べていたら雪が降りだしてきたので片づけて 1 時出発。雪降りの中 2 時 30 分燕山荘到着。小屋には 20cm ほどの新雪が積もっていました。小屋は満室でした。燕山荘往復の燕山荘ツアーが多かった。夜は雪と風でとても寒かったです。朝食後山頂に向かったのですが山頂周辺が大渋滞していたので辞めて引き返し、小屋 8 時発で 4, 50cm の新雪の中をゆっくり歩きちょうど 12 時に大天井岳に着きました。喜作新道の分岐より大天井岳の直登がきつかった様です。山頂は混み合っていました。そのうちの若い女性グループの一人が「冬季小屋は床が濡れていて大変だから常念まで行ったほうがいいですよ」と言われました。30 分ほど休憩して恐る恐る冬季小屋に入ってみたら 1 階の床は濡れていたが 2 階の床は濡れていなくて快適そうだったので泊まることにしました。1 時時点では先客 1 人だったのですが 3, 4, 5, 6, 時と二人三人と増えてきて 2 階が 6 人、

下に 8 人で満室になりました。最後に来た人は土間にマットを敷いていた様です。プラス外にテントが 13 張りありました。屋根からのつららがたくさんあったのでそれを利用したので水作りのガスが節約できました。昼・夜・朝の三回の食事でガスボンベは小 1 ケで済みました。夜から風が強く朝も風は収まらず風の弱まるのを待って 8 時出発。途中何か所か強風で歩行困難。台風姿勢と休憩を取りながら常念小屋に 12 時に着きました。常念小屋は雪に覆われていて玄関を開けたら中はとても暖かく「お湯と水はご自由にどうぞ」と言われました。ちなみに燕山荘はお湯と水は有料でした。冬季小屋と常念小屋はともに暖かく快適な夜を過ごせました。朝食後 7 時発で山頂へ 8 時 30 分着。大パノラマを 30 分ほど写真撮影して下山。1 時間ほどで下りました。テント場でゆっくり昼食をとってゆっくり下山。出だしの急な雪渓を一気に一の沢まで降りることができました。そこからは右岸左岸の残雪を渡り歩いて登山口へ。途中何か所か夏道が使えず苦勞する所がありました。5 時前に登山口着。休憩と山菜取りで 1 時間後一路中房登山口へ車回収。「しゃくなげの湯」は満車でしたが「山のたこ平」は駐車 5、6 台しかなかったのでお風呂に入りました。お風呂後夕食を食べて解散。このルート今回が最後かと思いましたが来年は 5 月末にもう一度来たいと言っていました。ヒヤリハットなし。山小屋一泊 14000 円、素泊まり 10000 円でした。常念小屋朝起きたら窓から圧巻の槍ヶ岳に感動しました。

2022/05/03 小日向山

参加者・・・伸二、EIEI

報告・・・伸二

すすむし荘 (6:00) → (7:00) 猿倉駐車場 (7:45) → 猿倉台地 (9:00) → 小日向の科尔 (10:00) → (10:25) 山頂 (10:40) → (11:30) 猿倉台地 (12:30) → (13:15) 猿倉駐車場

松川村のすすむし荘を予定どおり 6:00 に出発し 7:00 に猿倉駐車場に着く。連休中で好天予報とあって駐車場はほぼ満車。猿倉荘に登山届を提出し

たりしていると意外に時間が掛かり 25 分遅れのスタートとなった。雪上は数日前に降った新雪が 5cm 位有りとても歩きやすかった。谷口はスノーシュー、栄子さんはつぼ足。予定より 25 分早く山頂に着く。帰りは台地でゆっくり昼食を取り帰る。

毎年ゴールデンウィークに来ている小日向山、雄大な白馬三山を眺める最高のポイントに満足。

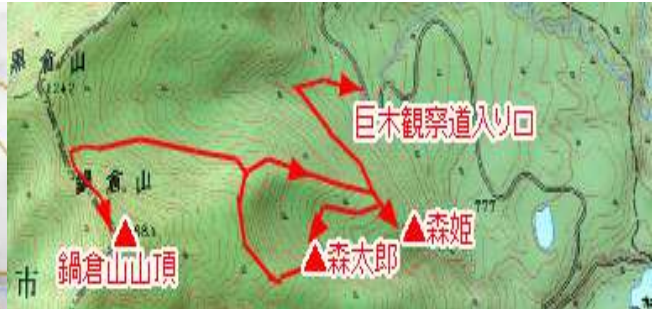
今年は参加者が 2 名と少なくチョットさみしかった。来年は焼き肉にしようかな？



2022/05/08 鍋倉山

参加者・・・伸二さん、白馬の山人、秀さん、尾形さん、じゅんちゃん、五十畑さん
EIEIさん、文ちゃん、順子さん、根橋さん、靖子さん、いくばばさん

下記の行程はいくばばさんの報告から抜粋



鍋倉山、森太郎散策ルート

五十畑さん LINE 投稿画像から

Sは駐車場 Gは下山して到着した位置

日程

松川道の駅 6:00→ぽかぽかランド合流→豊田飯山 IC→道の駅ふるさと豊田→田茂木池登山口 8:30 登山開始 8:55→鍋倉山山頂 10:40 下山開始 11:25→林道到着 14:00→田茂木池登山口 14:15

→道の駅ふるさと豊田→豊田飯山 IC→長野 IC→大町文化会館(五十畑号)

各車→松川道の駅(尾形号、細田号)→鈴木号

感想・・・いくばばさん

天気に恵まれ久しぶりに大人数の山行になりました。雪山でしたが、軽アイゼン、つぼ足、長靴とそれぞれ自分に合ったアイテムでの登りでした。鍋倉山頂への最後の登りは、とても急坂で息が上がりましたが、前の方で足場を作って下さったので、登り切ることができました。日本海を見ることができました。お昼を取った後下山開始です。登りの急斜面を避けて下って行くうちに、森太郎が有る谷へ降りるタイミングを逃す事になってしまいました。



あまりの急坂で全員が下れないと判断し、尾形さんとじゅんちゃんのみが急坂を降りて車を回して下さることになりました。残った私達は急斜面を避けつつ藪漕ぎしながら

ら迂回路を探しました。池が前方に見えましたが、中々たどり着くことができません。ようやく赤テープが見えたので辿って行きましたが、途中からまた藪漕ぎとなってしまいました。車道が見えた時には本当にほっとしました。尾形さんの迎えの車に乗り込み駐車場に着きましたが、鈴木さんがいない事に気がつきました。男性4人が森太郎の谷方面に探しに行きました。ようやく連絡が取れて車で迎えに行きました。森太郎の谷側に下ったが危険だったため、登り返して私達が下った場所に来たそうです。皆が無事に戻って本当に良かったと思います。単独行動と大人数ゆえの怖さを知った山行になりました。いくばば

感想・・・靖子さん

ぼかぼかランドから4台に分乗し鍋倉山に向かう、登山道口から、雪があり、アイゼンを付けて、話しをする余裕もなく、慎重に登る、灰白色で滑らかな幹のブナの巨木の森では、果実が一面に、落ちていました、頂上で昼食を済ませ下山、靴底に付いた雪を落としながら、教わったようにやったつもりでしたが、滑ってしまい、藪もあり下山は、たいへんでした、無事に皆で帰って来られて、良かったです、ありがとうございました。

感想・・・EiEiさん

山頂迄は巨木の谷に満喫して大変感動した…しかし、森太郎に会いと下山するも、ルートを外れ、藪漕ぎしながら下った。しかも3箇所に分かれて下山したから、それぞれPに着く時間がまちまち…1名が来ず、大騒ぎとなる。何故、1人行動を共にしなかったか、定かでない。根本の団体行動が取れなかったのは疑問が残る。

感想・・・順子さん

新緑の鍋倉山、景色を楽しむ余裕はなかった。急な雪の斜面をほぼ直登に進む。誰かが足を滑らせたなら、助けることは、無理だと、蹴り込む足に力が入る。頂上からの眺めは良かった。下山は、最初緩やかだが次第に急になり藪に入る。何人かは3mほど滑り落ちたが、木に掛り、けがもなくよかった。巨木の森太郎を探して4人ほどがあっちでもないこっちでもないと下って行ってしまふ。その後を追い、2つに分かれてしまったグループが合流して先の4人を追う。藪の木に助けられて何とか無事に下山できた。

感想・・・五十畑さん

残雪の鍋倉山

ここ数年、3月に山スキーで鍋倉山に行くのが恒例になっていたが今年はコロナの影響もあっていきそびれていたが、5月の残雪、新緑の季節に行くことになった。冬の間は温井集落に駐車して麓の高原地帯を延々と登るのだが、今は林道の舗装道路が開通して標高900mくらいの除雪終点に車を駐車して登る。山スキーのパーティも何組かいるがここからは登りでも2時間弱と短いので楽。

冬とは違って今は新緑の季節なので青空を背景にブナの新緑が美しい。雪面はブナの実や小枝などが散らばってスキーにはちょっと滑りづらいが歩くのには柔らかくまだアイゼン

はいらない。

10時半くらいに頂上で簡単な昼食、眺望を楽しみ森太郎方面の尾根を降ることに。夏道が雪で隠れているので地図を見ながら降るが右に行きすぎてしまい左の沢に降りたいが傾斜が急で皆が安全に降るのは難しいと考えて尾根通しに降る。ところがこれが間違いのもとで一部雪も切れて藪漕ぎで尾根が急になる。沢筋を選んでさらに降ると駐車場をだいぶ過ぎてしまうが左の沢側には急で降りられない。

下部急傾斜帯では先に左の沢に降った尾形さんと電話が通じて連絡しながら下の池に降りることができたがだいぶ下の林道になってしまった。尾形さんが車で迎えに来てくれて駐車場に戻ることができた。

ここで鈴木さんが我々と別れて降ったのでまだ戻っていないことがわかり探しに行くがなかなか戻ってこない。後で聞いたところでは下部の沢で雪が割れていて登り返したとのことで遅くなった。やはり大人数の場合、別行動をしないでまとまって動くことが必須であることを感じる。事故につながらなかったのがよかったが、もし途中で怪我で動けなくなると遭難もあり得たかもしれない。今回の反省として記憶したい。



ヒヤリハット・・・いくばばさん

○下山のルート取りが、雪上ということもあって不確かで、降りるべきところを過ぎてしまった。藪漕ぎしながら降りられそうな道を探すことになってしまった。

○行動の確認をせずに動いたため、単独行動になっていても誰も気がつかず、安否の確認が遅れた。

(大人数だと皆の所在がバラけてしまい、統率を取りにくい。一人一人の行動の確認不足になる)

○レインウェア のパンツは、滑り落ちると止まりにくいので、注意が必要。

ヒヤリハット・・・順子さん

下山後、1 人不明（その後無事下山）巨木の森太郎を探し、以前来た時の記憶であっちでもないこっちでもないと先に下って行ってしまい、隊がバラけてしまった。不明者が出た最初の原因ではないだろうか。

滑り落ちた時の対処は、ストックでは、無理。どうすればよいのか。

順子

5/8 鍋倉山の反省と教訓・・・白馬の山人より



今回の鍋倉山会山行において、下山の途中から結果的に鈴木が別行動をとり、下山が約1時間遅れた。「結果的に」というのは、鈴木が後ろから誰かも来るだろうという思い込みで、事実上の単独行動だったことである。

直接の原因は、鈴木はショートカットできると思って沢におり、たびたび登り返したりトラバースするという危険な選択に陥った。

鍋倉頂上から軌跡図 E 地点までの下りでは、12 人のパーティはかなりばらけていた。（これ自体にも問題がなかったとは言えない）目的の「森太郎」のある地点からは少し離れていたことは、E 地点あたりから、何人かはわかっていた。森太郎を過ぎてしまっていたため少し下りを急いだ感があった。かなり下山していたので、ルートの途中まで引き返すことはパーティとしては考えなかった。

A 地点あたりまでは鈴木と谷口さんがほぼいっしょにいた（パーティの中では A では先頭だったと思う）。谷口さんはジグザグしながらほぼ尾根沿いに下った（緑の軌跡）が、鈴木は道路方面へショートカットできるのではないかと考え、（B に向う）最初の少し急な斜面を降りた。この斜面は前向きで下るにはやや厳しかったが、藪は多くなく、なんとか降りられたが、そのあと次第に急斜面になった（ここで引き返すべきだった）が、前進を続けた。

しばらく行って、メガネが細枝に当たって顔から外れ、落としてしまった。えらいことになったと大ピンチを意識。強い近視のためメガネがなければ危なくて歩けない。見つからなければ、ザックに予備メガネは入れてあるので、それを使えることを思いながら探したら幸い数分で見つけることができた。

近くにはメンバーはだれもいないことが分かったので、絶対に滑落してはならないと考え、ストックを雪面に差し込み、バックステップで（雪面に顔を向け）両足を雪面に蹴りこみながら、少しずつ下った。軌跡（赤のライン）では S 字のようにクロスしているあたりから下を見ると 5～6 メートルの急斜面で沢には結構な水流が見えた。かなり逡巡した。とにかく絶対に落ちてはならないとだけ考え、靴を蹴りこむ。アイゼンはなかったが中途半端に柔らかな雪の状態は、おそらくアイゼンの意味はなく、蹴りこんでも雪は崩れることはなかった。

B から C あたりはほぼトラバースで少しずつ下るが、浅いシュルンドになっていて、雪面をバックステップか前向きにトラバースするよりも岩との間に入った方が安全と考えて 3m ほどシュルンドの中をトラバースして脱出。もう安心かと思ったが、地形図には出ていない残雪の沢が続く。雪の厚さがあるので大丈夫だろうと渡ったらずぼっと踏み抜いた。腰あたりまで落ちたが水はたいしてなく、岩も小さいので足は何ともなかった。これが大きな雪渓なら流れも速く中は真っ暗だっただろう。第一、一人で這い上げられるかが問題だ。今回は意外と雪が薄かったのも、這い上がるのにも少し割れたが、幸い浅かったのもそれほど苦労しなかった。あとでもう一度雪を踏み抜いたが、それは雪渓といえるほどではなかった。

トラバースのあと、もう少し行くとかなりの藪で、明らかに尾根と思われる地形を確認しながら下山する。藪をかき分けなんとなく足跡っぽい雪のへこみを見つける。赤布が出てきた。これで無事下山できるかと赤布を見ながら進んだが途中でなくなってしまった。傾斜はかなり緩やかになってきたので、藪はうっとおしいが yamap で方向を確認しながら行くと高さはさほどない白いポールっぽいのが何本か見えた。道路のワイヤーを固定するポールだろうと推測してそっちを目指した。しかし藪また藪で軌跡には現れていないが右へ左へと。なかなかポールに近づかない。最後の沢に出たら道路が見えたので沢を跳び越えた。やっとのことで確実に安全な道路に出ることができ、携帯電話が繋がったので、駐車場に向いながら途中でピックアップしてもらった。

いくつかの感想

① 連絡方法（スマホと笛）と地図

・スマホバッテリーの減りを抑えるため、山行の初めから機内モードにしていたが、メンバーとの合流が遅いので心配かけているかもしれないと思い、C地点あたりから谷口さん他に何度か携帯電話した。しかし誰にもつながらないので再び機内モードにした。時々機内モードを解除して通信を試みたが、結局道路までだめだった。その割にバッテリーはかなり減っていた。

・どこかでホイッスルを使うべきだったが、持っているのに思いつかなかった。紙地形図も絵地図も持ちながら一度も見ずにスマホの yamap のみを見ていた。現在地を大きな紙地形図上でも見て、しっかり確認すべきだった。

② リスクと教訓

最大のリスクは、急斜面の雪面を滑落する危険だった。一步誤れば5~6メートル滑落しかねない、急流が流れているように見えたので、ストックを雪面に思いっきり挿し込んでトラバースしたが、滑落すれば骨折や捻挫で歩行困難、最悪の場合流されることになりかねないので、慎重に進んだ。こんなとき沢用の短いバイルかピッケルでも雪に確実に挿し込めば安心できたが、今回は装備に持っていった方が良いとは判断しなかった。

翌日、意識して見たわけではないが、ネットでは山菜取りでの事故を含め、残雪期のこの間、結構滑落による死亡や骨折などが多かったように思った。

「迷ったらわかるところまで戻る」という当然の原則に立たなかったこと、そして沢へは降りないという鉄則を守らなかったことである。「終わりよければ、すべてよし」ではないことを強く反省している。

メンバーの皆さんと山行管理の小山さんには本当にご心配をおかけして、お詫びするしかありません。



2022/05/15 5月の山スキー

報告・・・五十畑さん

(5月15日) 乗鞍岳春スキー

町田グラウスの山スキー企画部では毎年5月に乗鞍岳で納会をしています。今年は5月14日から15日にいつもの民宿で行いました。GW後には変わりやすい天候でしたがなんとか持ちそうな予報。

前日夜に納会の宴会をして15日朝に三本滝のバス停に行くとなすでに30人ほどが並んでいる。春山バスの始発8:30が道路凍結のためキャンセルになっていていつ出るかわからない。やがて職員が車で点検から戻って1時間遅れの9:30にはバスが出るとのアナウンスがありやれやれ。

始発で3台のバスが位ヶ原小山荘10:20まで行くがすでに10時過ぎているので今日はどこまで登れるかわからない。ここからシールをつけて総勢8名で雪の斜面を登る。雪はザラメ状だが凍るほどではない。天候はなかなか晴れず曇りで少し寒い。スノーボードもいるがほとんどは山スキーが多い。中には尻滑りのプラスチック板を持ったグループもい

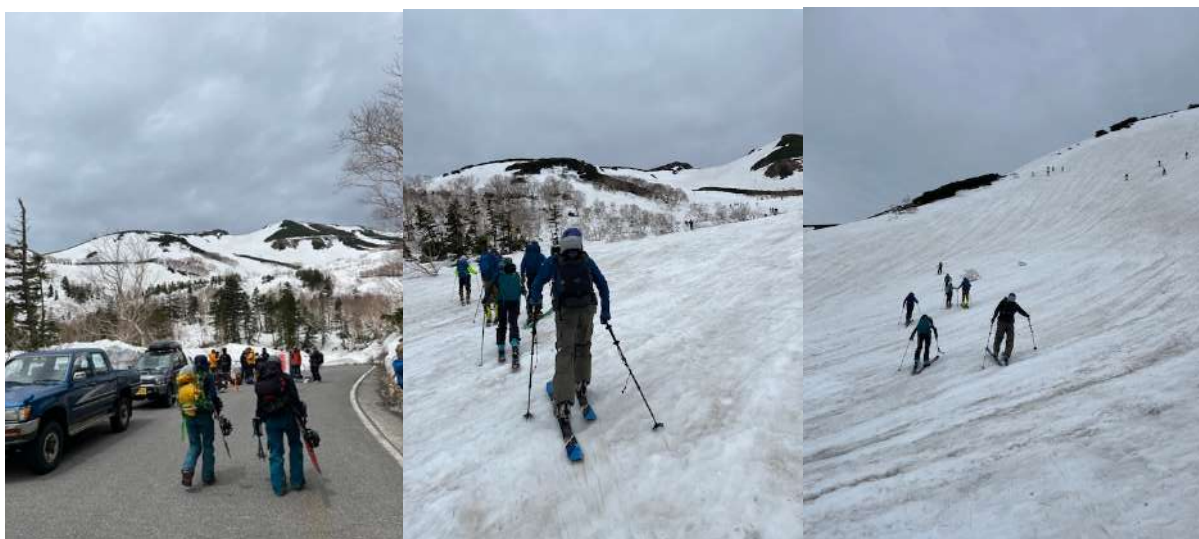
ていろんな楽しみがができるのが春山のいいところ。ところどころハイマツが露出しているので雪渓の雪のあるルートを選んで登る。

雪渓の斜面をトラバースしていると上のルートを歩いている一人が滑落して落ちて我々のところまで落ちてきた。途中岩場もないので怪我はないがバランスを崩さないよう注意が必要だ。

上に行くに従って風も出て日が当たらないので寒くなってきた。まずは肩の小屋まで上り昼過ぎになったので風邪の当たらないところで昼食休憩する。

今日はここまでとしてシールを外して滑降に、しかし雪が凹凸があって硬いのでガリガリとうるさく快適には滑れない、それでも降るにつれて雪が柔らかくなりなんとか位ヶ原山荘に到着。13:55

バスまでだいぶ時間があるので山荘でお汁粉を食べて今年の春スキーの完了。



(5月18日) 尾瀬燧ヶ岳

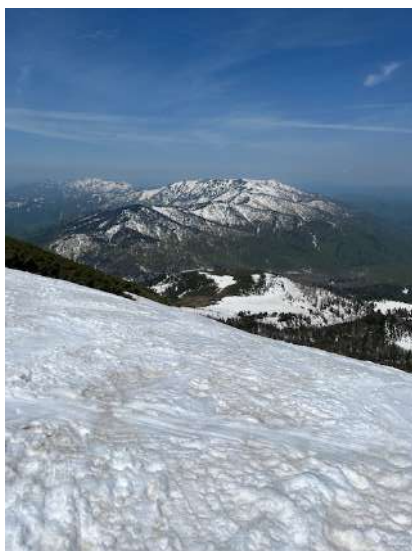
今年は大雪なのに融雪が早くて、そろそろ山スキーも終わりになり始めた、予報を見て18日は晴れるので前日に南会津の檜枝岐村の民宿に到着。大町から450kmを6時間かけてやってきた。

今回は東京山スキー学校5期の同窓でいつもの4人の仲間。

18日朝 7:30 に民宿から御池の駐車場に到着。今日は平日だが10台ほど来ている。さすがに周りは雪の壁になっていてシールをつけて上りはじめる。燧ヶ岳の会津側は3段になっていて最初の樹林帯が急峻で途中で板を外して登るが、ひとり木の周りの穴に落ちてしまうこともあって苦労して広い雪原の広沢田代について一休み。ここまで2時間近くかかった。

ここからまた樹林の斜面を上り、一度熊沢田代に少し降って最後の雪渓を頂上まで登る。雪渓の斜面を慎重にトラバースするが、だんだん傾斜が急になってくるので緊張するところ。幸い昼になって雪が柔らかくなってきたのでシールにスキーアイゼンが効いてひたすらジグザグに登っていくと頂上直下の台地に到着して上りは終了 12:40。風もなく快晴で日光から会津、上越の雪山の景色を楽しんで、お楽しみの滑降に。快適にあっという間に降るが、下部ヤブで雪をつなげながら滑るのに苦労したが 15:00 に御池の駐車場に到着

した。合計7時間以上かかり疲れた。



 2022/05/08 善光寺古道(柄山峠から柄山) からやま

報告・・・白馬の山人

冬は廃村集落の菅入すげいりのほうからほぼ西に登ったが、雪に阻まれ途中撤退したため、5月18日に単独で野平のへいからリベンジ。地形図には道は載っていないが、ヤマレコの記録はいくつかある。地元野平の有志が草刈りをしてきているそうなので、どんな道かわからないが、事前に地形図に書き込んだ尾根伝いに行ってみることにした。



登山口に長野ナンバーの車が1台あったので先客がいるかと思ったが、結局会わなかった。結論的には、峠まではほとんど問題がなかったが、峠から柄山へはブッシュでたいへんだった。歩きやすい箇所もあったが古道はほとんど完全に山道だった。途中5か所ほどクマよけの鐘があり、叩きながら進んだ。(下の写真)

峠まで順調にちょうど3時間。峠にはお堂があり、仏像が2体安置されていた。途中で鉄塔を抜けるところや、ほぼ90度に曲がる場所など、ややわかりにくい箇所もあり、単独ゆえ下山に間違わないよう赤テープを持って来るべきだったと後悔した。

お堂の前で少し休憩し、柄山へのルートを探したがわからなかった。半ば諦めて、今回は峠まででいいかと思い、少しだけ鬼無里側に下って山を見上げたら、ちいさなピンクテープがかろうじて見えたので登って行った。踏み跡っぽい雰囲気もなかったが、方向を確認しながら藪をかき分けて登ったらなんとか着くことができた。標識は全くなく、三角点があるのみですぐ下山した。普通にルートが鮮明にあれば、15分ほどで登れそうだった。

峠でおにぎりを食べてから、ゆっくり下山したが、二人以上なら鬼無里側に車をデポするか、交差縦走も時間的には十分可能だ。白馬から鬼無里へ車を回収するには40分程度かかるため、交差縦走がいいかもしれない。峠周辺はブナ帯だったので秋がよさそうだ。

白馬村からの善光寺古道は3ルートあったようだ。この柄山峠越えのほか、少し南に柳沢峠、そしてさらに南の

上：野平集落からの眺望、周辺は田植えを始める前の棚田が広がっていた
 中：白馬に近い側にあった番屋あと。柄山峠は松本藩と松代藩の境界であった。遠くは越中からも通ったという。
 右下：「駒休の頭」とある。牛馬が荷を積んで運んだ。
 下：途中に5か所ほどクマよけの鐘(鎌?)が吊り下げられていた



左 白馬 右 鬼無里 と読める

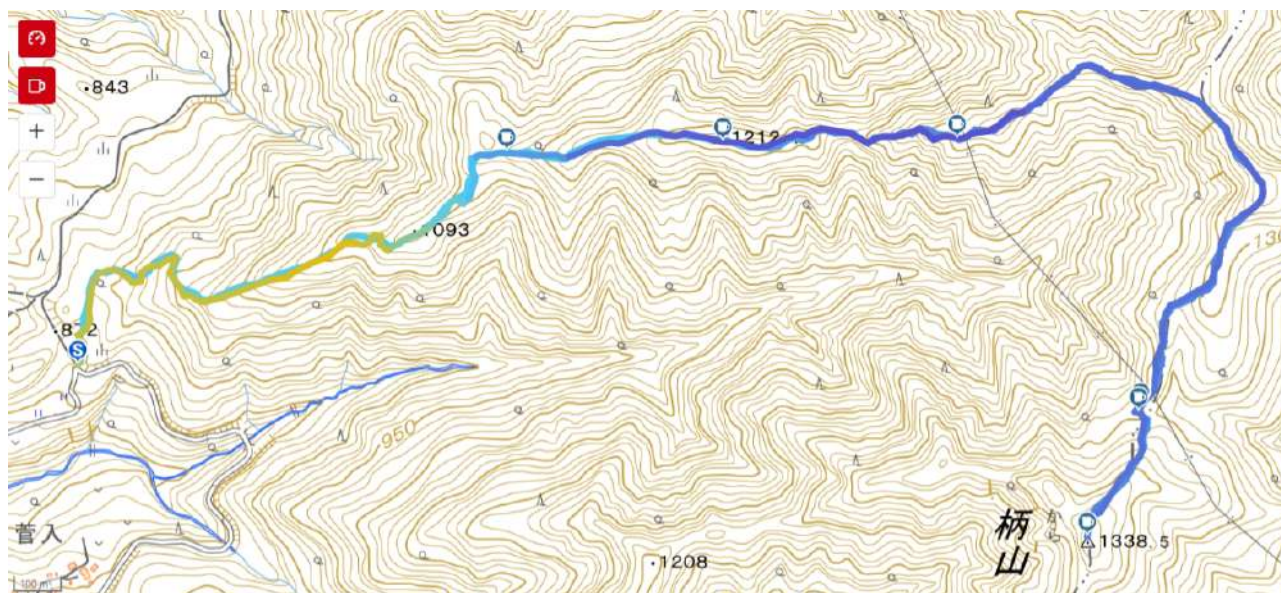
嶺方地区から夫婦岩（嶺方峠）を越えるルートがあったようだが、今も通行できるかわからない。また調べてみたい。

いずれにしても、この柄山峠越えがメインで、いわゆる「塩の道」の小谷村千国から分岐して、遠くは越中・越後からも戸隠・善光寺を目指して人馬が通ったようだ。現在の国道406号線ができるまで、つまり昭和30年代初めころまで人々が通い、鬼無里はにぎわったという。それくらいロマンあふれる鬼無里への道は魅力がある。かつては峠から白馬の峰々がはっきり見えたようだが、木々は伸び残念ながら眺望は良くなかった。これも歴史の経過であろう。お堂の前には大山桜の大樹があったらしいが、朽ちてしまいその姿は根株を残すのみだった。

そう遠くないうちに、今度は鬼無里側から峠を目指そうと思う。



峠周辺はブナの緑がまばゆかった



今回の所要時間 往復6h45（休憩1h25含む）ゆっくり歩行
スタート8:04→鉄塔10:03→峠11:03→柄山11:30 峠から柄山へは藪 赤テープがわずかにある

2022/05/20-21 男山・天狗山・御陵山・茂木山

参加者・・・じゅんちゃん、EIEI

コースタイム

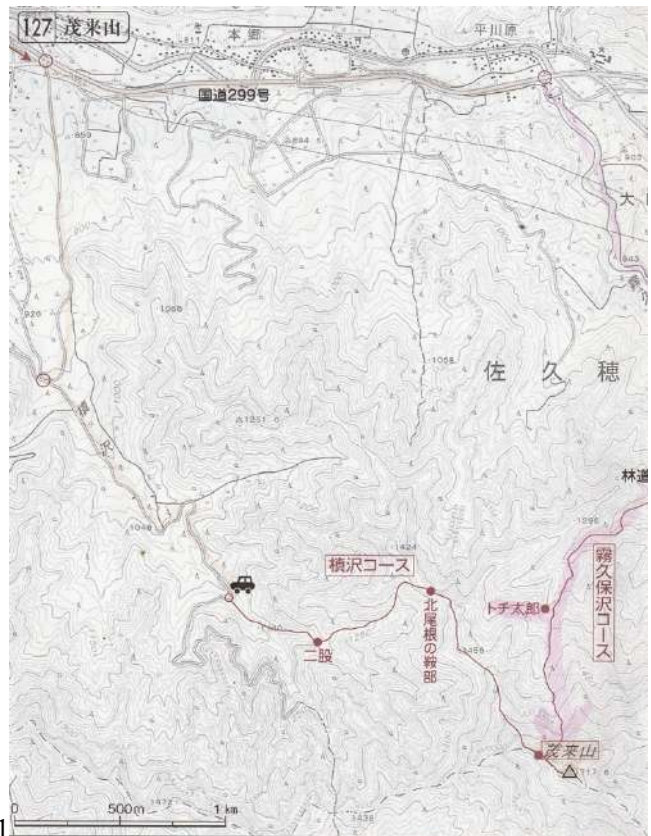
20日 田淵記念館 P6：00→馬越峠 P8：31→天狗山 9：30→立原高原分岐 10：31→垣越山 10：34→御所平分岐 11：28→11：32 男山 12：00→垣越山 12：41→天狗山 13：39→馬越峠 P14：30 ● 馬越峠 P15：10→送電線鉄塔 15：57 御陵山 16：31→送電線鉄塔 17：00→馬越峠 P17：50



21日 茂来山登山口 7：08→栗大木 8：15→霧久保コース分岐 8：53→9：18 茂来山 9：24→栗大木 10：00→茂来山登山口 10：36→田淵記念館 P

報告・・・じゅんちゃん

順調に登山口である馬越峠に到着。ここから天狗山を目指す。縦走路は岩が多いので安全のためヘルメットを被って出発。縦走路からは川上村のレタス畑のビニールが光って安曇野の水田に水が入ったように見える。眼下には見たことがない大規模な太陽光ソーラー発電所が見え景観が悪い。シャクナゲの花が丁度見頃でアップダウンを繰り返して男山に到着。休憩してから同じルートを馬越峠に戻る。次に御陵山に向かうが馬越峠からの登山口には案内標識が無く時間をロスする。送電鉄塔を經由し御陵山頂上へ。休憩後馬越峠に戻る。尾根からは御座山が大きく眺望できる。馬越峠からテントを張れる場所を探すため南相木村の中心街



に下る。翌日4時半にテントを撤収し食事を食べた後、茂来山登山口に向かう。雨がポツポツしてきたので雨具を来て出発したが、やんだので上のウエアーを脱ぎ歩くことにする。栗の古木の脇を通り予定通り頂上に到着。現在の天皇（当時皇太子浩宮）の登頂記念碑もある。雨の心配もなく慎重に登山口に帰着後、「権現の湯」で入浴し帰宅した。なかなかハードは二日間であった。



天狗山山頂



男山を望む



縦走路のしゃくなげ



男山・川上村レタス畑



茂来山の尾根にある
栗の大木



御陵山



茂来山・山頂

🔨 2022/05/25 高瀬湯又温泉噴湯丘

報告・・・順子さん

7:00 尾形宅集合＝8:00 七倉登山口＝高瀬ダム上部＝8:40 車止め・・・9:20 避難小屋・・・湯又温泉・・・11:40 噴湯丘・・・12:15 釣り橋 13:25・・・噴湯丘・・・湯又温泉・・・15:45 車止め・・・16:30 七倉登山口・温泉・・・18:00 尾形宅解散



天気は、15 時ころまで良い天気であったが、予報通り 3 時過ぎからぽつぽつとあった程度で車に乗れた。ひどい降りは、車の中で、湯から出るころには、上がっていた。登山道は、高巻きは、以前と同じ 4 か所ほどであったが、木道が壊れて落ちたり、斜めになっているところが何か所かあり荒れていた。工事の人とトラック以外合わず、土砂の多さに驚きながら歩くイワカガミ、シャクナゲが咲いていて見ることができてよかった。つり橋へは、根橋、菅沢を除く 5 人が行き、鉄板が外されているつり橋のワイヤーを伝わり歩いてきたそうだ。噴湯丘は、古いものとかかなり下に新しいものできていて両方を見ることができた。

ヒヤリハット：なし



感想・・・聡子さん

高瀬川～湯俣川の青くキレイな水の色に感動しました。湯俣温泉から伊藤新道に新しくかかった吊り橋まではなかなかのアドベンチャー感でスリルがあり、一般登山道にはない楽しさがありました。川の横に温泉が湧いているのも面白かったです。Sさんが卵を持ってきて温泉卵を作ってくれました。すごく美味しかったです！



🏔️編集後記🏔️

山スキー、残雪、里山、古道と春らしい皆さんの山行を楽しく拝見いたしました。たくさんの寄稿をありがとうございます。編集を後回しにして、晴天の休日に山に行ってしまいました。(居ても立ってもいられなくなってしまった・・・)